

第59回中学生海の絵画コンクール

審査員 綿引 昭子 (新世紀美術協会 会員)

松浦 孝 (門司港美術工芸研究所 所長)

講 評

コロナ禍により、また、世界の先の見通せない状況が続く中、明るい明日でありますようにと願いを込めて、今年もまた、海の絵画コンクールの審査に向かいました。

今回からは、長い間審査を共にさせていただきました穴吹先生から新しく松浦孝先生に引き継がれました。今後とも精一杯頑張りますので、よろしく願いいたします。

例年のように、期待に胸をワクワクさせながらの会場入りです。

応募者数は去年より少し減少気味でしたが、一点一点の作品からは美に対する純な気持ちと、絵を描こうという情熱をひしひしと感じました。そして、色に敏感な人、また、色よりも形体に魅かれて単純な色で描いている人と、さまざまな作品に出会いました。

上手下手というよりも、絵は、如何にして真摯(しんし)であるか、描いた人が如何に燃えたかにより、見る人の心を打つのです。

審査は、最後まで苦しめられましたが、金賞1名、銀賞3名、銅賞6名、佳作30名を、決めさせていただきました。優秀校には、今回も佐世保市立日宇中学校に決定いたしました。

受賞された皆さま、おめでとうございます。これからも、大いに苦しみ、そして壁にぶち当たりながら、乗り越えていきましょう。

来年も楽しみにしています。ありがとうございました。

審査員 綿引 昭子 (新世紀美術協会 会員)